

# Travel-Guide Text における場所 句倒置文と非倒置文について\*

甲 斐 雅 之

## 1. はじめに

Be 動詞を挟んで主語と be 以下の要素の語順が入れ替わる倒置文の研究 (Bolinger (1977), Birner (1994), Dorgeloh (1977), Birner & Ward (1998), Guijarro, Moya & Hernández (2001), Chen (2003), etc.) は、これまで、様々な角度から行なわれてきた。例えば、先行研究で挙げた Bolinger (1977) では、(1) のような例文が認められるためには、前提として「脳の右半球」に何かがあるということが先行文脈になければならないとしている。つまり、この文は、脳に関連する講義の端緒として述べるのは不適切であるが、既に脳の機能分化の話題が先行しているような文脈では可能となるようである。Bolinger (1977) は、このような倒置文の特徴について、提示機能 (presentative function) を持つとしている。ここで言う提示の機能とは、談話を舞台の比喻に喩え、あるものを観客である聞き手の眼前に登場させるという働きである。

- (1) In the left hemisphere of the brain are centers that control the production of speech. (Bolinger 1977: 111)

---

\* 本稿は、甲斐 (2004) の内容を発展させ、さらに、そこで扱わなかった現象も取り入れたものである。なお、本稿は、英語語法文法学会第11回大会 (2003年10月25日、於関西外国語大学) の発表原稿を加筆修正したものである。

つまり、(1) が可能な文脈を情報構造の観点から考えれば、前置要素は、後置された主語より古い情報でなければならないということになる。先行研究の多くが、何らかの点で、この考え方に沿ったものと考えられる。

それでは、(2) の travel-guide text の用例はどうであろうか。引用したガイドブックの印刷上の特徴に近づけて、タイトルをボールド体でパラグラフの先頭につけてある。

- (2) **Britain at War Experience** Under another Tooley St railway arch is the Britain at War Experience. (S. Fallon, *London*)

この例は、London の Britain at War Experience という博物館への経路を記述した文の冒頭ある。Britain at War Experience がタイトルとして与えられていることから分かる通り、後置された主語の方が情報的には古い内容となっている。また、travel-guide text では、CHAPTER の冒頭にそこで紹介される観光スポットの名前を予めリストするような場合もある。このようなことを考えると、travel-guide text における場所句倒置文は、リスト文的な機能を持つと考えられる。

さて、ここで取り上げる travel-guide text は、倒置文が多く用いられるジャンルだと言われている。本稿では、主語・場所句倒置文が多用される travel-guide text の用例を検討することにより、一般的な議論からは見えてこなかった現象や特徴が明らかになるものと考ええる。

また、travel-guide text では、旅行者に見立てた読者に、できるだけ効率よく順路を提示（移動の指示）をする必要上、実際の観光という行動を想定して、それらをできるだけ忠実にテキストに反映させていると考えられている。本稿では、そのような travel-guide text（特に観光の順路を表す場合の）を構成する上での原則を experiential iconicity と呼び、その原則に基づいて、具体的にテキストがどのように構成されていくのかを見ていく。あわせて、travel-guide text における通常の語順の構文（ここでは、以後非倒置文と呼ぶ）との使われ方の違いについても考察を加え、travel-guide text における用法について明ら

かにしたい。

## 2. Text Strategy と Experiential Iconicity

ここでは、前節で言及した experiential iconicity という概念について、もう少し詳しく見ておきたい。

(3) に挙げるように、Enkvist (1978) によれば、text strategy は、テキストを線状性を支配するパラメーターの総体であるとし、また、experiential iconicity は、Virtanen (1992) によれば、いくつも考えられる text strategy のパラメーターであると考えられている。

(3) a. text strategy:

the sum total of the textual parameters that govern linearity in the text and in the sentence

(Enkvist 1978: 166)

b. text strategy を構成する parameters:

(a) decisions concerning text type, (b) text-strategic continuities, (c) styles,

(d) information dynamics, (e) experiential iconicity, (d) point of view, (e) grounding, etc.

(Virtanen 1992: 54)

experiential iconicity とは、(4) に示すように、テキストと外界の経験の間にある何らかの isomorphy 「同一性」である。この experiential iconicity の原則が、「場所を最初に配置し、次に観光スポットを配置する」という統語的な配列に反映されているわけである。これは、ちょうど、ガイドがこれから紹介しようとする名所の場所に聞き手の関心に向け、その段階で名所の名前を挙げるという方法と同じである。

(4) experiential iconicity[iconicism]:

a. an isomorphy of some kind exists between the text and our experience of the world

(Virtanen 1992: 77)

- b. This principle — first place, then sights — is iconically reflected in the syntactic organization of guidebook language

(Enkvist 1987: 20)

次に、基本的な travel guide text の構成について見る。Virtanen (1992:195) では、travel-guide text は複数の move という textual unit から構成されるとしている。move は、location、sight(s)、information concerning the sight(s) といった情報により構成される単位である。

(5) Travel-guide Text の構成：

move: (a) location, (b) sight(s) and (c) information concerning the sight(s)

(Virtanen 1992: 195)

場所句倒置文では、前置要素が location に、後置された主語が sight(s) に対応することになる。information concerning the sight(s) は、様々な形で後続する談話で展開されることになる要素である。独立した文として続いたり、関係節として後置された主語についたりする場合もある。また、travel guide text 全てが、(5) の (a) (b) (c) の全ての要素が揃った move で構成されているとは限らない。例えば、非倒置文を扱う 4 節で少し触れるが、(c) の情報のみで構成される場合もある。

さて、3 節以降では、(5a) の location と (5b) sight が experiential iconicity の原則に沿って、どのように具体化されていくか見ていくことにする。

### 3. Travel-Guide Text における場所句倒置文

まず、(6) の談話を見てみよう。

- (6) The approach to the Silver Pavillion, Ginkakuji Michi, runs along a canal lined with cherry trees, one of Kyoto's popular blossoms-viewing spots. On the south side of the street are several inexpensive restau-

rants with a wide variety of rice and noodle dishes, a European-style place called Noa Noa that features spaghetti with a Japanese touch, and lots of stalls selling food, sweets, and souvenirs.

[下線は筆者。以下同じ]

(J. Clancy, *Exploring Kyoto*)

(6) の談話の断片は、銀閣寺道から始まる銀閣寺、大文字等の sights を案内する章の本文の冒頭である。この例では、Ginkakuji Michi の設定を述べることで、観光が開始されたことを表し、順路の設定を確立している。それに続く、場所句倒置文の前置要素に来る Ginkakuji Michi と照応する the street が、先行文脈との関係を示し、それを含む前置詞句全体が経路情報を表している。そして、その経路上に several inexpensive restaurants があることを述べている。

また、(7) と (8) でも、先行する文脈で経路が確立した上で、場所句倒置文が用いられている。(6) の例とは異なり、これらの例では、単純に場所を表すのではなく、方向を示す語句で、旅行者に見立てた読者に順路の指示を与える感じが強くなっている。

(7) The grounds are entered by a carefully composed approach, first through a formal corridor of tall hedges, then around a bend to a gate. Beyond is a second gate and wall with bell-shaped window, framing the first glimpse of the garden proper. (J. Kinoshita and N. Palevsky, *Gateway to Japan Third Edition*)

(8) The route begins at the northwest side of the Ninnaji compound beyond a small gate. After passing through the gate, about two hundred meters ahead is a conspicuous white sign with black lettering. (J. Clancy, *Exploring Kyoto*)

(9) の例はパラグラフの冒頭である。先行談話で確立された経路が続いていると考えられる場合は、次の例のようにセクションやパラグラフを超えて、場所句倒置文が用いられる。

(9) **Jungle Bath (Janguru-buro)**

A km or so down the road is the huge Ibusuki Kanko Hotel, a very popular destination for Japanese honeymooners and recommended to anyone traveling on a non-budget basis. (J. L. McQueen, *Japan: A Budget Travel Guide*)

(10) は清水寺に関する記述である。

(10) The main hall has a huge veranda which just out over the hillside, supported by 139 15m-high wooden pillars. The terrace commands an excellent view over the city center.

Just below this hall is the Otowa-no-taki waterfall, where visitors drink the sacred waters, which are believed to have therapeutic properties (and also improve school test results). South of the main hall is Koyasu-no-t?, a three-story pagoda housing a statue of the goddess responsible for the safe delivery of babies (which explains the frequent visits by pregnant women). (C. Rowthorn and M. Florence, *Kyoto*)

ここでは挙げてはいないが、(5c) で見た information concerning the sight、とりわけ清水寺に関する史実が先行する談話で述べられている。これまでの例では、先行談話で経路が明確に設定されてから、場所句倒置文が使われていたが、この例では、場所句倒置文がその sight 全体（ここでは、清水寺）にとって特徴的な場所の記述に後続し、そこから行ける場所という形で、別の sub-sight とも呼べる the Otowa-no-taki water fall へと案内している。

さらに、travel-guide text においては、(11)、(12) のように、地図を見ることを前提に、sight の場所を明らかにするために、先行談話で触れられていない通りやランドマークになる地点を表す固有名詞が、前置された要素に現れることもある。

(11) One way to orient yourself is to start in Hyde Park (Map 5) at Museum station's Liverpool St exit. Walk north through the park past

the Anzac Memorial. On the right, on College St, is the Australian Museum. From here William St (the eastward extension of Park St) heads east to Kings Cross. Across Park St, at the end of the avenue of trees, is the wonderful Archibald Memorial Fountain (Map 5). To the north on College St is St Mary's Cathedral. (S. O'Brien, *Sydney*)

- (12) A short distance to the west, next to Hollywood Rd Park and before Hollywood Rd debouches into Queen's Rd West is Possession St. (S. Fallon, *Hong Kong & Macau*)

このように、場所句倒置文は、地図の力を借りて主要な地点を確認しながら、想定上の順路に沿って進んで行く際の移動を促すという働きも持っている。

また、場所句倒置文は、地図を見ている読者が地図そのものの上を目で追うということを想定している文脈にも拡張して用いられる。つまり、locationの情報がそのまま現実の経路情報を表すのではなく、地図上の視線の動きを促す働きをしている場合である。それが(13)の例である。この例は、カフェ、興味深い店、よいパブがinner suburbs中に散在しているという内容の後に続く文である。

- (13) Cafes, restaurants, interesting shops and good pubs are peppered throughout the inner suburbs.

East of the city centre are Kings Cross (Maps 6 & 7), Woolloomooloo, Potts Point and Elizabeth Bay. Further east are the exclusive suburbs of Double Bay and Vaucluse. South-east of the city centre are the interesting inner suburbs (Map 8) of Darlinghurst, Surry Hills and Paddington. At the city's eastern extreme are the oceanfront suburbs of Bondi Beach (Map 11) and Coogee (Map 10). (S. O'Brien, *Sydney*, p. 22)

この例では、視線がSydneyの中心部から、一旦東に向かって行く線が一度南に折れ、さらに東の郊外へと進んでいくようにそれぞれの目的地の位置関係が記述されている。

次に、(14) の例では、Hyde Parkを中心に地図上の視線を南北に動かすような形になっている。大きな公園や広場の周囲にある建物に向かう際、その中心から目的地がどちらの方角にあるかを考えて移動する方がわかりやすいのと同じような発想で、目的となる建物の位置関係を表していると思われる。

(14) **HYDE PARK & AROUND (MAP 5)**

The pleasant Hyde Park is large enough to offer a break from traffic and crowds, but retains a city feel.

At the northern end is the richly symbolic Art Deco Archibald Memorial Fountain. Sydney Archibald, founding editor of *Bulletin* magazine, bequeathed the fountain to the city. The statues are from Greek mythology. Near Liverpool St, at the southern end, is the dignified Anzac Memorial (1934), which has a small free exhibition of photographs and exhibits covering the wars Australians have fought in. There are tours at 11.30am and 1.30pm daily. Some pines near the memorial were grown from seeds gathered at Gallipoli. (S. O'Brien, *Sydney*)

(15) は、Nanzen-jiを起点に周囲に視線を向けるというようにも取れるが、実際には、障害となる建物があって、見渡すことは不可能である。やはり、地図上の位置を考慮してこのような形で記述しているのである。もちろん、実際の移動を考えた際には、Nanzen-jiを起点に考えて移動するのは言うまでもない。

(15) Dotted around the grounds of Nanzen-ji are several subtemples that are often skipped by the crowds and consequently easier to enjoy. (C. Rowthorn and M. Florence, *Kyoto*)

談話の先頭で順路が確立されていない場合でも場所句倒置文が用いられることがある。(16) は、London郊外にあるHerver Castleに関する談話の冒頭部分である。Londonを中心とするガイドブックでは、Londonが行動の起点にな



るという前提で書かれている。従って、先行談話がなくても、Londonから、地図上の視線の移動を想定していると思われる。

(16) **HERVER CASTLE**

Some 35 miles from central London, is idyllic Herver Castle. (S. Fallon, *London*)

さらに、(17) のように本来設定すべきルートそのものが前置された場所句に含まれている場合、談話の先頭であっても場所句倒置文が用いられる。

- (17) South of Niomon Dori is Murin'an. Built at the end of the last century for the statesman and general Yamagata Aritomo (1838-1922), and landscaped by Yamagata himself with the help of the famous gardener Ogawa Jihei, this villa contains a spacious, stroll-type garden that incorporates a view of Higashiyama. (J. Clancy, *Exploring Kyoto*)

(17) の談話の断片は、Murin'anを起点に国際交流会館から南禅寺といった京都のsightsを巡る文の冒頭である。なお、Murin'anがCHAPTERのタイトルの下にリストとして挙げられており、情報の流れとは無関係に場所句倒置文が使用されていることになる。

#### 4. Travel-Guide Textにおける非倒置文

Dorgeloh (1997: 102-3) は、通常の語順の構文と場所句倒置文の意味の違いについて説明している。(18a) について木が観察者 (viewer) の視線の中に入っていさえすれば、適切であり、木が家の表にあるのか裏にあるのかは決定できないとしている。一方、(18b) では、観察者は家の中から見ていることになり、木は家の前にあることになっているとしている。

- (18) a. The tree is in front of the house. (Langacker 1990: 6)  
b. In front of the house is a tree. (Dorgeloh 1997: 102)

つまり、(18a) の非倒置文は客観的に木の場所を表していると考えられ、(18b) の場所句倒置文では、前置された場所に観察者がいて、そこから後置された主語が表す物に目を向けることを表すと考えられる。

また、場所句非倒置文と場所句倒置文の違いについては、Chen (2003:217-8) でも扱われている。(19a-b) は、Chen からの引用である。

- (19) a. On your right are a group of hippos. They are right now taking a rest under that tree. On our left are our happy deer. They have been enjoying themselves ever since they came. If you look down the valley, you'll see a dirt area. In the area where the grass starts off again, under the big tree, are three giraffes. They seem to be hungry, don't they?
- b. A group of hippos are on your right. They are right now taking a rest under that tree. Our happy deer are on your left. They have been enjoying themselves ever since they came. If you look down the valley, you'll see a dirt area. Three giraffes are in the area where the grass starts off again, under the big tree. They seem to be hungry, don't they?

(19a) は動物園内を走る鉄道での案内であり、倒置文により動物がいる場所を案内している。(19b) は、(19a) の倒置文を非倒置文に変えたものである。(19a-b) とともに容認可能であるが、(19b) が適切であるためには、園内の動物が全て鉄道に乗っている乗客の視界に入っていなければならない。

それでは、travel-guide textにおいては、非倒置文がどのような機能を果たしているか、実例を見ながら考えてみたい。

まず、(20) と (21) の例について見てみよう。

- (20) Kasuga-taisha, Nara's most important shrine, was founded in the 8th century by the Fujiwara family and was completely rebuilt every 20 years according to Shinto tradition, until the end of the 19th century. It lies at the foot of the hill in a pleasant wooded setting with herds of

sacred deer awaiting hand-out. (C. Rowthorn and M. Florence, *Kyoto*)

- (21) Mampuku-ji was established as a Zen temple in 1661 by the Chinese priest Ingen. It is a rare example in Japan of a Zen temple built in the pure Chinese style of the Ming dynasty. The temple follows the Obaku school, which is linked to the mainstream Rinzai school but incorporates a wide range of esoteric Buddhist practices.

The temple is a short walk east of the two railway stations (JR Nara line and Keihan Uji line) at Obaku — about 30 minutes by rail from Kyoto. You can walk there from Uji-bashi bridge. (C. Rowthorn and M. Florence, *Kyoto*)

(20) と (21) は、下線部の場所句が倒置されていない文に先行する形で、information concerning the sight の内容が展開され、最後にその sight が何処にあるかという記述になっている。なお、この両者のテキストについては、これ以後、Kasuga-taisha 及び、Mampuku-ji に関する記述は続かない。

次に、(22) を見てみよう。

- (22) Tōjiin is a ten-minute walk farther west through a beautiful residential area. Cross Nishōji Dōri at the traffic light in front of Hirano Shrine and walk west to the next light. Turn left, or south, and on the left you will pass an ultramodern-looking structure, a subsidiary shrine of Kumano Shrine.

Farther south, a meter-high stone pillar on the corner on the west corner, or right side of the street, has the name Tōjiin carved on its south. Turn right and follow the curving street past Rokusei Shrine until you come to a large square white pillar with the characters for Tōjiin painted in black. (J. Clancy, *Exploring Kyoto*)

(22) のテキストの断片は、京都の北野近辺の sights について記述している。それ以前の sight に続いて、次に紹介する sight である Tojiin についての記述が始まる箇所であり、下線部はパラグラフの冒頭である。ここで注意しておきたい

のは、パラグラフ冒頭の下線部の場所句非倒置文が、後続する経路全体（旅行者に見立てた読者への道順の指示）の見通しを与えている点である。ただし、地図を見ていたとしても、町の中を通る複雑な経路を途中のランドマークとの関連なしに把握するのは難しいはずである。ここでは、どのくらいの時間歩かなければならないかを、目安として予め読み手に知らせることで、経路への関心を向けやすくしていると考えられる。

このように、場所句非倒置文は、travel-guide textにおいて、読み手に場所の移動を指示する文脈とは異なる文脈において、一度紹介したsightが何処にあるのかを記述する際に用いられる。また、そういった目的となるsightが結局は、順路型の文脈にあっても、後続する順路全体を予告したり、要約したりする機能を持つ。この機能は、非倒置文の主語が表す名詞句の位置関係を客観的に表したり、主語名詞句で表される物がすでに視界に入っていることを表したりする特徴を利用したものであると考えられる。

## 5. 場所句倒置文と非倒置文との混在

本節では、場所句非倒置文と場所句倒置文が混在する例について、それぞれがどのような意味合いで用いられているのかを具体的に見ていきたい。

まず、(23) を見てみよう。

- (23) The Kyoto Botanical Gardens are a fifteen-minute walk south of this district. Walk either along the cherry-lined Kamo River or straight south from Ota Shrine until you reach Kitayama Dōri. A few minutes walk east is the north entrance to the gardens. (J. Clancy, *Exploring Kyoto*)

この例は、(22) と比べるとかなり短いですが、(22) と同様の文脈である。(23) でも、要約的にこの談話中のsightであるThe Kyoto Botanical Gardensへの経路が予告的に記述されており、後続の文脈でその順路の内容が詳述されている。そして、最後の場所句倒置文が、目的地となるsightへの道のりを読み手に指示し

ている。これは、ちょうど (22) で、Tojiin への最終的な道のりが命令文で表されているのと並行的である。

次に、(24) の例を見てみよう。

- (24) From Broad Walk continue eastwards then turn left (north) up Merton Grove to Merton St. On your right is Merton College, founded in 1264. In the 14th-century Mob Quad is the oldest medieval library still in use in the UK. Corpus Christi College is on the left of Merton St. (S. Fallon, *London*)

2つ目の倒置文の場所句内の Mob Quad は Merton College の建物の一つである。また、Corpus Chiristi College は、Merton College と Merton Street を挟んで向かい側にあり、進行方向に向かって右側にある建物である。これらの sights は、連続して紹介されている。sights の一つであり、順路全体の中で通過点にしかすぎないが、位置関係からいって、あまりにも近くにあるためにすぐに眼中に入ってくるという感じを表そうとしているようである。すでに視線に入ってきているものの場合には、順路の中であっても、その sight にいきなり言及し、そのあとで何処にあるのかを述べる方が、実際の旅行者の感覚を明確に伝えられるのではないと思われる。

そして、このことは、例えば、(25) でも、すぐには視界に入っていないが、Raigōin がそばにあることを場所句非倒置文で表そうとしている例からも確かめられる。

- (25) A wide, well-landscaped gravel road leads back to the impressive imperial tombs, among them those of Emperor Kōmei and Emperor Go-Horikawa. Across from the north ticket booth are stone stairs which lead down to a path by a bridge. Raigōin is on the other side of the arched stone bridge. (J. Clancy, *Exploring Kyoto*)

それでは、最後に (26) の談話の断片を見てみよう。

- (26) Trafalgar Square is flanked by many imposing buildings and important thoroughfares fan out from it. To the north is the National Gallery and behind that the National Portrait Gallery; Pall Mall, which was named after a croquet-like Italian game called *palla a mgllo* (ball to mallet) played here by Charles II and his court, runs south-west from the top of the square. The Church of St Martin-in-the-Fields is to the north-east, and directly east stands South Africa House (1933), where the stone head of African wildlife have gazed down on anti-apartheid protesters in the square for decades. To the south, the square opens out and you can catch glimpses of the Houses of Parliament down Whitehall through the traffic. To the south-west stands Admirably Arch, erected in honour of Queen Victoria in 1910, with the Mall leading to Buckingham Palace beyond it. To the west is Canada House (1827), designed by Robert Smirke. (S. Fallon, *London*)

この例は、旅行者としての読者がTrafalgar Squareの中央に立ち、北側から順に見回しながら、sightを構成する周囲の建造物を一つ一つ見ていくという形の記述を行っている。まず、視線を北の方に向けると、the National Galleryがあるというところから記述を始め、そこから順に周りの建造物に視線を合わせていくという形をとっている。次の文では、Pall Mallが視線をthe National Galleryから手前に移すと必然的に入ってくるということを表現しているように解釈できる。すなわち、非倒置文がexperiential iconicityの原則によって利用された例と考えられる。また、The Church of St Martin-in-the-Fieldsは、別のページで"occupies a prime site at the north-eastern corner"と書かれてあり、the National Galleryと同様、他のガイドブックでも別項目で扱われるほど重要で目立つ建造物なので、ここでは非倒置文を用いることで、すぐに視線に入ってくるという感じを出していると思われる。

## 6. ま と め

travel-guide textにおける場所句倒置文の使用は、情報の流れだけで決まるのではない。travel-guide textにおける場所句倒置文は、実際の観光という行

動を意識してテキスト上の sights に、旅行者に見立てた読者を案内する働きや、拡張的に地図の上で読者の視線を sight に誘導する働きがある。非倒置文に関しては、主語名詞句で表される sight が既に視界に入っていることを表すという特性を利用して、順路型の文脈に生じるかどうかとは無関係に順路全体を要約的に示す働きがある。さらに、両者のタイプの文が混在する談話においては、それぞれの機能が有効に働いている。

### 主要参考文献

- Birner, Betty, J. (1994) "Information Status and Word Order: An Analysis of English Inversion," *Language*, 70, 233-259.
- Birner, B. J. and G. Ward (1998) *Information Status and Noncanonical Word Order in English*, John Benjamins, Amsterdam.
- Bolinger, D. L. (1977) *Meaning and Form*, Longman, London.
- Chen, R. (2003) *English Inversion: A Ground-before-Figure Construction*, Morton De Gruyter, Berlin.
- Dorgeloh, H. (1997) *Inversion in Modern English: Form and Grammar*, John Benjamins, Amsterdam.
- Durbig, H. B. (1998) "On the Discourse Functions of Subject Verb Inversion," *Essays in English and Applied Linguistics on the Occasion of Gerhard Nickel's 60th Birthday*, eds. by J. Kefraf and D. Nehls, 83-95, Julis Groos Verlag, Heidelberg, .
- Emonds, J. E. (1976) *A Transformational Approach to English Syntax: Root, Structure-Preserving and Local Transformation*. Academic Press, New York.
- Enkvist, N. E. (1978) "Linerarity and Text Strategy," *The Nordic Languages and Modern Linguistics* 3, ed. by J. Weinstock, 150-172, The University of Texax at Ausitn, Austin, Texas..

- Enkvist, N. E. (1981) "Experiential Iconicism in Text Strategy," *Text* 1, 77-111.
- Enkvist, N. E. (1987) "A Note Towards the Definition of Text Strategy," *Zeitschrift für Phonetik, Sprachwissenschaft und Kommunikationsforschung* 40: 1, 19-27.
- Guijarro, A. J. Moya, and J. I. A. Hernández (2001) "Points of Departure in News Items and Tourist Brochures: Choices of Theme and Topic," *Text* 21, 347-371.
- Halliday, M. A. K. (1994) *An Introduction to Functional Grammar* 2nd ed. Edward Arnold, London.
- 甲斐雅之 (2004) 「Travel-Guide Text における主語・補語倒置構文」『河上誓作教授退官記念論文集』687-697, 英宝社, 東京.
- Linde, C. and W. Labov (1975) "Spatial Networks as a Site for the Study of Language and Thought," *Language*, Vol.51, 924-939.
- Langacker, R. W. (1990) "Subjectification," *Cognitive Linguistics* 1, 5-38.
- Langacker, R. W. (1992) "Reference-Point Constructions," *Cognitive Linguistics* 4, 1-38.
- Longacre, R. E. (1996) *The Grammar of Discourse*, 2nd ed. Plenum Press, New York.
- Virtanen, T. (1992) *Discourse Functions of Adverbial Placement in English: Clause-Initial Adverbials of Time and Place in Narratives and Procedural Place Descriptions*, Abo Akademi University Press, Abo.